
守りましょうとも！

満月氷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「やつめしゅうじゅうもー！」

〔π-IZ〕 N 7596 N

作者名

滿月冰

【ジサウル】

私は瞳様の守護をしているのに！まったくあいつというやつは！

「紫乃どの～！」

「また来たよあの野郎。

「会いに伺ひにきました～お久しうつづけます～！」

私は青筋をたてながら無視して云ふと、横から急に手がのび、首の前で交差した。

！？

「紫乃どの…」

後ろからなんの断りもなく抱きついてきたあにつて私は横つ面を引っ張つたいてやつた。

「うう、ひどい…。一寸ぶりでいらっしゃるの？」

赤くなつてしまつた頬をおおえながらアアア、とくずれる「」。

男の貴様がそんな気持ち悪いことをするな～それこそこの前嫌でも会つたではないか！

と、叫びたいのだがだせない。

瞳様の守護をしている私は理由があつて声が出せないのだ。
しかし出せる方法は一つだけある。あることはあるのだが、腹立た
しく言いたくもない。

「…、瞳様が、わ、私がお守りしている、瞳様が、あ、あんなこと
をするなんて、想像したくもない！」

「紫乃どの！」

「…、なんだ、もう立ち直ったのか。では、今一度…

「わあっ…し、紫乃どの…」

ふわりと飛んで避ける。ここにも私と同じで妖怪などではなく
人の人間を守護するやつ。

それにして何でこいつ、私の心が読めるんだっ

「それはですね、紫乃どの。他の者にはわからないかもしだせぬ
が私は貴女の顔を見ていたらわかります。いわば愛の力とこうや
つです！」

「うわあーー、いきなり顔を近づけるでない、ばか者！それから
女みたいなそのしゃべり方、やめい！何度も言つたらわかるんだ！

「もしかしたら他の男もしてるのかもしだせぬよ？紫乃どのはあまり
瞳どの以外に目がいかぬから…」

話してもお前はいちいち邪魔をするではないか！それにお前が

喋るときもいつ！

「「う……。紫乃どのーー」

「ああー！だから触るなと言つていいだろうがー」ところでお前！康人（やすひと）様の守りはどうした！

康人様はこいつの守るべきお方であり、瞳様の想い人。最近ようやく一人は両思いになり、お付き合いしたばかりだった。

「へ？ああ、康人なら……うん。もうそろそろでござりまする」

？そろそろ？何がだ？それに守らなくて大丈夫なのか？

「大丈夫であります。それより瞳どのは？」

話をそらすな！

「紫乃どの、瞳どのは？」

「へ……、どうも、一人になりたいらしつ

瞳様がたとえ私の姿が見えてなくとも、何故か今日だけは絶対に誰にも見られたくないというのが何となく だが伝わった。

いくら私でも瞳様のプライバシーを侵害するようなことはしない。

「その理由はあとでわかりまする」

?

「きょとんとした紫乃どのも可愛いで」やれつまるーー早く、早く
紫乃どの声が聞きとりやまつます…」

安心した。喋れた日には貴様の存在を徹底的になくす

「ひどい…えへへえ~」

……?

傷ついたかと思いきや、今日はやけに立ち直りが早い。瞳様とい
い、こいつといい、なんなんだろ?~?

「どちらにしても康人と瞳どのが結ばれれば私達はずつと一緒です。
あの一人を破局になんて絶対に、絶対にさせません」

……だから、私は貴様などと…

「……紫乃どの」

びくりと肩がふるえた。こいつの顔は先ほどとは違ひ本気の顔を
し、私の腕を捕まえると目を熱くさせながら私の顔を見つめていた。

「貴様ではありませぬ」

やつの顔が少しずつ近づいてくるとこいつのに私は動くことも喋
ることも出来ない。…もとより話せぬが。
人間でもないのに胸がすゞぐドキドキしている。

「貴様でもお前でもない。……紫乃どの、私の名を」

あ、……う……

「紫乃どの……」

あ……え、……あ……りえ

「ちやんと、はつきり……」

「……霧江（きりえ）つ……」

……く、な、何を言わせ…………えつ？

「な、声……が」

「紫乃どの……」

やつがいきなり強く抱きしめてきた。

「そろそろだと想つておりました！私決めていたのです。紫乃どのの最初の声は私の名を呼ばせてみせると！」

「な、きさま！……つ！で、では、瞳様は……まさ、か……」

「”初めて”、もとい純潔を奪われちゃいましたねえ」

「そんな……」

……む、昔から、昔から大事に、娘のように守つてきたのに……。それなのに……。

大人に、なつてしまつた。そのことが凄く悲しい。

「なぜ泣いとるのありますか？康人なら瞳どのをちやんと支え、

守ってくれるにいやつだと思こます。悲しむことなどあつませぬよ
？」

確かに。彼はとても整った顔立ちをし、誠実で強く、しつかり者で優しい。

清純で、おしとやかで、内氣で、可愛らしい瞳様に相応しそうのくらいのお方だと思っていた。

…でも、嬉しくとも寂しいものは寂しいのだ。

「ああ、紫乃どの。我らも…」

「は？…と。ちよ、ま、待て！何故私の上に乗るんだ！」
「瞳どのの”初めて”が今、奪われました。つまり現在一人が何をしているのかはお判りでござりましょ？」

そ、それは…。顔が赤くなってしまったのが自分でもわかつた。

「なつ…だ、だがしかし何故今私がきや」「霧江つ
「…霧江、と、せ、せねばならんのだ！降りろ！」
「好きだからに決まつてゐにござります、紫乃どの」
「だ、だが、わたしは、す、好きでは…」
「では」
「つて人の話を聞け！か、顔を近づけ、るな…」
「やつぱり紫乃どのの声は可愛いありますなあ…。…もつと、
もつともつと聞きたいです、紫乃どの…」

「瞳様あ…。なぜですか瞳様あーーつー！」

(後書き)

霧江の言葉使いが変になってしまったー難しい…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7596n/>

守りましょうとも！

2010年10月11日11時35分発行